

客に限らず、システム単体での導入も可能だ。

「管理の一元化が当社の最優先事項でしたが、導入後に感じたメリットは多々あります。まず、ガソリンカードやETCカードが車両にひも付いたことが大きかった。これまでは社用車を私用で使っている、管理側では把握し切れずにいたのです。利用状況が明確になったことで不正防止はもちろん、残業や休日出勤の労務管理がしやすくなり、働き方改革にもつながりました」（芝本さん）

アラート機能も、メリットを実感する一つだ。この点については、キムラユニティーの担当者である齋藤誓也さんとのきめ細かな連携が生きている。

「齋藤さんがよく確認してくれているおかげで、今は半年先まで見越して動いています。リースなどの期限の管理のほか、日々の小さなQ&Aにも対応してもらっています」（芝本さん）

齋藤さんとは月に一度の対面による打ち合わせだけでなく、普段からTeamsで密にコミュニケーションを取っている。KIBACOは直感的に使えるようにインターフェースが工夫されているが、それでもちょっとした疑問が速やかに解消されるサポート体制は信頼関係を高める。齋藤さんには、クライアントのBPOを任されているという自負がある。

「お客さまの疑問や要望を傾聴し、課題解決に努めることを心掛けてい

ます。気持ち的には、芝本さんの直属の部下です（笑）。マルエム商會様のように複数の拠点がある場合は特に、システムを統一して展開できるクラウドサービスは利便性が高いと思います」（齋藤さん）

法改正にのった運用フローデータ活用で進むDX

導入以来、管理者の工数は劇的に削減されたという。同社ではだいたい五年ごとにリース車を入れ替えるが、七〇台以上あると月に一二台は該当車となる。

「これまでは一台入れ替える度に稟議書を上げていたのですが、それ也不需要になりました。年に一度の入札で車を決めたあと、入れ替え時にKIBACO内で数回クリックするだけで手続きが完了します。管理者の負担は大幅に軽減されましたね」

では、運転者の工数はどうだろうか。KIBACOにはアルコールチェックを含む点呼機能がある。これは、今秋以降に予定されている道路交通法改正「白ナンバーにおけるアルコールチェック義務化」に対応するものだ。現在、世界情勢による半導体不足などからアルコール検知器の供給に支障が出ており、義務化は延期される見通しだが、それも一時的な措置だと考えられる。

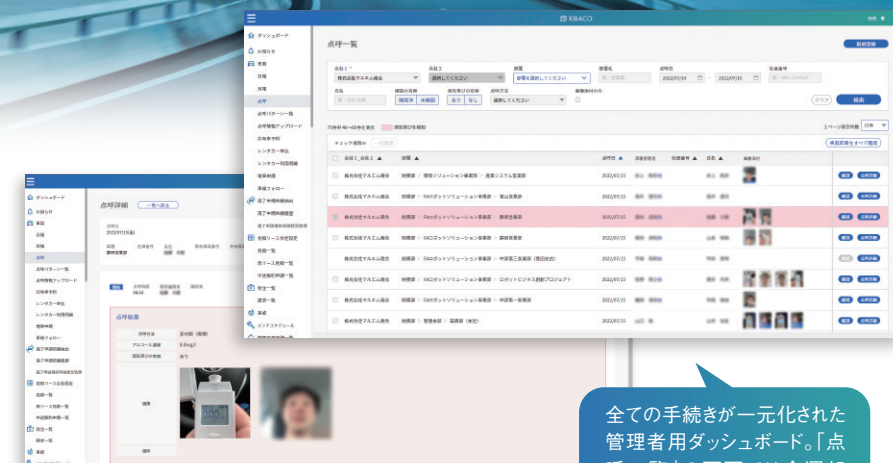
近い将来、「運転前後のアルコールチェック」「正常に機能するアルコール

検知器の常備」が正式に義務となることを見据え、マルエム商會ではすでに一人一台のアルコールチェッカーを支給済みであり、いつ施行が開始されても問題ない。運転者は乗車前にモバイルで点呼を行い、健康状態や免許証所持などを尋ねる一〇程度の質問に〇×を入れたあと、アルコールチェッカーの濃度を記入する。数値が基準値を超えていた場合は、管理者にアラートメールが自動配信される。

「以前は運転者に乗車日誌を付けてもらっていたのですが、これも抜けている日があるなど管理が行き届きませんでした。今はスマホを使って〇×を



運転者は乗車前後にKIBACOに連動した検知器でアルコールチェックを行う。数値が基準値を超えていた場合は管理者画面にアラート通知が表示される



全ての手続きが一元化された管理者用ダッシュボード。「点呼一覧」の画面では全運転者の状況を確認できる

社有車管理を一元化して可視化 法改正にのった運用で安全・安心を実現

「車両管理」に含まれる業務は多岐にわたり、全てを自社で行うのは大変だ。キムラユニティー株式会社が提供するクラウド型車両管理システム「KIBACO（キバコ）」は、社有車運用に関するあらゆる管理を一元化し、データ活用を可能にする。同システムを導入した株式会社マルエム商會に、運用面での変化や今後の展望を聞いた。

利用状況が可視化され
各種満期日もお知らせ

株式会社マルエム商會は電機機械設備の総合技術商社であり、産業用ロボットや受変電設備、各種電機・機械機器、水処理・太陽光・空調機器などを取り扱っている。社有車は愛知、富山、大阪、九州の拠点に七〇台強を擁し、使っているのは主に営業担当者たちだ。財務部長である芝本隆之さんに、クラウド型車両管理システムを導入するに至った背景を尋ねた。

「もともと社有車の管理は関係会社任せにしていたのですが、社有車を戦略的に管理していくという点で物足りなさを感じていました。そこで当社で引き取ることにし、一元管理してくれるBPOの委託先を探しました」

以前から車両リース関連で付き合いがあったキムラユニティー株式会社に相談したところ、費用もこれまでより抑えられることがわかり、外注を決めたという。キムラユニティーは車両リースから事故防止のためのコンサルティングまで、車両管理に関係する包括的な自動車サービスの提供を強みとしている。

「KIBACO」は、データ活用による「安全安心、コンプライアンス、コスト削減」を実現するために独自開発されたクラウド型車両管理システムだ。車検整備、保険、ETCやガソリンのカード類、免許証情報など車両タスク



株式会社マルエム商會
管理本部財務部 部長
芝本 隆之さん(左)

キムラユニティー株式会社
営業2部営業3課 係長
齋藤 誓也さん(右)

の管理全般をはじめ、eラーニングで運転者の安全意識を高めるサービスや、同社に集積されたビッグデータを使って業種別保有台数別に他社と車両コストを比較できる機能などが搭載されている。自社の運用コストが可視化されるので、最適化しやすいと好評だ。また、管理者用のダッシュボードには事故発生時の緊急通知のほか、リース契約や保険契約の更新期日アラート等も表示され、重要なタイミングを逸することがない。

ユニークなのは、アルコールチェックシステムに無料で付帯する、業界初の「レピュテーション費用保険」特約だ。万が一飲酒運転による事故が発生した場合に備え、弁護士や危機管理コンサルタントへの相談料、原因調査費用、信頼回復広告費用など上限一億円分を補償する。もちろんBPO導入顧

つけるだけで完結し、データは自動的にクラウド上にアップロード・保管されます。法令遵守が徹底できる上に、運転者の手間も管理面も、確実に楽になっています」

必要なときにいつでも取り出せるデータの特性を生かし、今後は部門・部署ごとの利用状況を分析し、車両数や活動領域の適正化をはかることも視野に入れている。このように、車両管理の向上は経営戦略にも深くかわってくる。

「KIBACOを導入したことで、車両管理が大きく改善したと評価しています。自社に合わせた細かいカスタマイズにも対応してもらえるので、満足です」

プロフェッショナルが並走することで、社有車管理のDXは前進する。法改正への備えが万全でないなら、BPOは有効な選択肢になるだろう。

お問い合わせ

キムラユニティー株式会社

フリーダイヤル(平日9:00~17:00)

0120-777-151



<https://kimura-kibaco.jp/>